

WebGISを活用した情報公開システム

Webブラウザ上の地図に各種の情報を重ね合わせて表示することができるWebGIS（GIS：地理情報システム）への注目が高まっている。本稿では、平成11年度に横須賀市とNRI（野村総合研究所）が共同研究として実施した全市民型GIS利用実験の紹介を通して、WebGISが利用者にもたらすメリット、留意すべき点などを考察する。

GISにもWeb化の波が到来

昨今のインターネット技術の進展にともない、Webベースで多様なアプリケーションを構築することが可能になっている。GISの世界においてもインターネット対応の技術革新が進み、Webブラウザ上の地図に各種の情報を重ね合わせて表示できる、いわゆるWebGISへの注目が高まっている。

全庁型GISから全市民型GISへ

自治体では都市計画、固定資産管理、防災情報整備など地図に関連の深い業務を各部署で行っており、業務の効率化を主な目的とした地図情報の整備を進めている。

これらの地図情報は自治体内で共有して業務に活用する（全庁型GIS）だけでなく、一般に公開する（全市民型GIS）ことで、市民サービスの向上にも役立てることができる。具体的な例をあげると、固定資産の登記情報、下水道や上水道管の埋設情報などの地図情報がインターネット経由で取得できるようになれば、自治体の窓口に出向く必要もなく、自分の都合のよい時間に情報を取り出せるようになり、利用者にとっても便利である。

今後、情報公開、インターネット普及の動

きが加速していく中で、全市民型GISへの期待はますます高まっていくものと思われる。

全市民型GIS利用実験の概要

横須賀市とNRIでは、自治体が市民向けの地図情報公開システムを構築する際に必要となるノウハウを獲得すること、問題点を洗い出して今後の開発に役立てることを目的に、以下に述べるようなWebベースの全市民型GISを構築し、共同で利用実験を行った。

横須賀市が保有する17種類の地図、台帳データ（都市計画基本図、航空写真、道路台帳など）をWebブラウザ上で自由に重ね合わせて表示できるシステムを構築した（図1参照）。

市民向けという点を考慮して、Webブラウザの種類を限定せず、特別なソフトウェア（プラグインなど）を必要としないGISエンジンを採用した。

属性情報については、既存データとの連携を考慮して、外部データベースとの接続を行った。

市民に情報を提供するだけでなく、市民が地図上の任意の地点を指定して情報や要望、意見を投書する機能を用意した。

